

NPO  
こどもすぺーす柏

ニュースレター

Vol.56 2014.6.1

発行者

特定非営利活動法人  
NPO こどもすぺーす柏  
〒277-0081  
柏市富里 2-3-26 青木建設隣  
Tel/Fax 04-7169-8451  
http://kodomospace.sblo.jp/  
Mail info@kodomospace.org

こどもがひとりの人間として尊重される社会をめざし、鑑賞とあそびを通して、生きる知恵と力を育てます。

## 皆様のチカラをお借りして事業を行っています

### 柏・愛らぶ基金 イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

柏市の寄付制度「柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）」をご存知でしょうか。2013年度から始まった柏市で活動する公益活動団体を支援していただく寄付制度です。以下は柏市のホームページに掲載されている、その趣旨についての文章です。

「柏市に住む人たちを、もっと幸せにしたい！」

そんな思いを抱いて活動している市民公益活動団体が、年々増加しています。

しかし、市民公益活動の性質上、「収益を上げて財源を捻出する」という財政的自立を実現できる団体は限られています。そのため、資金確保に悩んでいる団体は少なくありません。

柏市では、これまでも市民公益活動の立ち上げを支援する補助金を交付してきました。しかし、全ての団体を網羅できるわけではありません。では、柏市に住む人たちのために公益活動をしている方たちを、どのように支えたらよいのでしょうか。

社会全体で市民公益活動団体を応援するには、寄附が重要な要素となります。

「柏市を良くしたい」

そんな市民の皆さんの思いを、寄附という形で市民公益活動団体へ託すための仕組みが、柏市民公益活動促進基金です。

この基金の愛称は「柏・愛らぶ基金」です。5月末現在11の団体が登録されていますが、私どもNPOこどもすぺーす柏も活動を評価していただき、開始当初から登録団体となっています。

2013年度中には個人、企業より合計22万円もの寄付をいただきました。

この寄付は2014年度の6月と12月に開催する「おやこ舞台鑑賞会」の経費の一部として活用し、子どもたちに還元させていただきます。今年度も市民の皆様、企業からのご寄付をぜひ

お願いします。寄付は「ふるさと納税」の考え方を使っており、寄付額に応じて住民税などが還元されます。詳しくは柏市ホームページ、柏市協働推進課、私どもの事務所までお問い合わせください。

イオン株式会社様が地域への貢献活動として取り組んで下さっている「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」についても紹介させていただきます。

毎月11日のイオンデーに買い物をする、そ

新連載 明橋先生の子育てハッピーコラム②  
《子どもの権利条約批准20年特別企画》(p3)



の日だけレシートが黄色に変わります。そのレシートを地域で活動するボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXに投函すると、その合計額の1%がその団体に還元されると言う寄付システムです。年に一度ギフトカードとして寄贈していただき、私どもは今年も2万円をいただくことができました。主に、事務所で使用するパソコンのインク代に充てさせて頂いており、たいへん助かっています。イオン店長様のお話では、現在、レシートの20%が投函されているそうです。今年は30%を目指したいということです。ぜひこちらの方のご協力もお願いいたします。その際はぜひとも「こどもすぺーす柏」のBOXへ。

このように、私どもは皆さまからのご支援で元気になります。

行政・企業だけではなく、そこに公益活動を行う団体が加わり、豊かで元気な柏になることよいと思っています。私たちは、皆さまからのご支援をいただきながら、子どもたちの心の豊かさを追求していきたいと考えています。

◆おやこ舞台鑑賞会 (No.52)

人形芝居燕屋 肩掛け人形芝居

「ねずみのすもう」併演「ハロー！ カンクロー」

6月29日(日) 1:30開演

アミュゼ柏1階プラザ

◆おやこ舞台鑑賞会 (No.54)

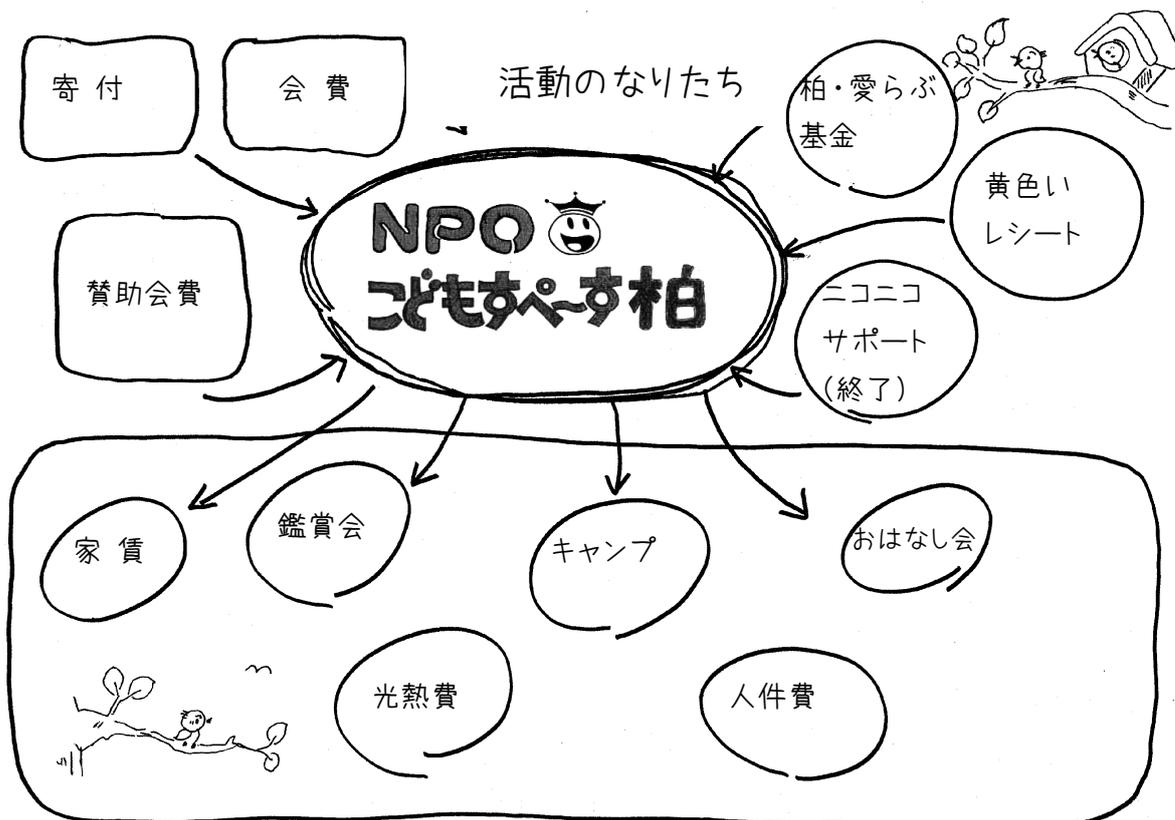
作品未定(幼児から小学校の親子向け)

12月7日(日)

アミュゼ柏1階プラザ



おやこ舞台鑑賞会 (No.50)  
「いつもお2人さま」会場の様子





## 明橋先生の 子育てハッピーコラム②

### 大人が、もう一度、遊び心を取り戻すこと。それがそのまま、子どものやる気を育てることになるのです。

『日めくり子育てハッピーカレンダー（1万年堂出版発行）』より”

子どもは、お母さんに完全に依存した状態で生まれ、そこで十分な安心感を持ちます。安心感を十分得た子どもは、外界への関心が生まれ、外に探検に出ます。

はいはいを始めた子どもは、いろんな物に興味を持ち、ひっくり返したり、口に入れたりします。これが、自立の始まりです。

つまり、自立というのは、親にとっては、とても手がかかる状態になることです。すぐに散らかす、口に何でも物を入れる、大切な紙を破る。とても目が離せません。しかし、こういう時の子どもの目は輝いています。

2、3歳になると、第一反抗期が現れます。こちらが、指示したり命令したりすると、「いやだ！」と言います。こちらが手を出そうとすると、「自分でやる！」と言います。ますます手がかかるようになります。

もう少し大きくなると、さらに行動はエスカレーターし、遊びから、イタズラになります。大切なものを壊す、危ないことをする、等々。

しかし、こういうことも、実は、子どもの心の成長にとってとても大切なことなのです。反抗は、自立のサインですし、イタズラは、好奇心の表れであり、自発性の育ってきた証拠です。

大人から見れば困った行動でも、子どもなりに、理由があるのです。

それを、大人の都合で、叱ったり、止めたり、ということが続けていると、自発性そのものまで、損なわれてきます。

遊びやイタズラを、過剰に規制したり、禁止することが、子どもの自立心を奪う、といわれるのは、そのためなのです。

逆に、もっとしっかり遊びなさい、みんなと一緒に仲良く遊びなさい、などと、指示や命令を繰り返していると、それはもう、遊びではなく、仕事になってしまいます。遊びでも、強制されれば、それは、仕事になってしまうのです。

遊びに満ちていたはずの子どもの世界が、今は、指示され、命令され、強制される「仕事」ばかりになってはいないでしょうか。それが、子どものやる気をそぎ、ひいては、学ぶこと、働くことに、苦痛しか感じられなくさせているように思います。

大人が、もう一度遊び心を取り戻すこと。それがそのまま、子どものやる気を育てることになるのです。

※『日めくり子育てハッピーカレンダー』は、「子育てハッピーアドバイス」シリーズの中から、人気の高い言葉を集めた31日分の日めくりカレンダーです。



#### ■プロフィール

明橋 大二（あけはし だいじ）

心療内科医、真生会富山病院心療内科部長、児童相談所嘱託医、スクールカウンセラー。著書『なぜ生きる』（共著）『輝ける子』『子育てハッピーアドバイス』ほか多数。子どもの権利条約に基づき、子ども支援の様々な活動・啓発を行うNPO「子どもの権利支援センターぱれっと」理事長としても活躍なさっています。





## 柏市からの委託事業 「放課後子ども教室」

柏市と連携した子どもにかかわる事業に積極的に取り組んでいます。

前身の柏子ども劇場時代から現在まで四十年にわたり培ってきた経験を柏市と連携することにより活動の場が広がり、子どものために生かす機会が増えると考えています。

昨年に引き続き、今年度も柏市教育委員会生涯学習課から「放課後子ども教室」の委託を受け、4年目となる「ステップアップ」は柏第三小学校、11年目となる「世界でひとつだけの絵本づくり」は柏第二小学校で行うことになりました。

「ステップアップ」は2時30分にスタッフが教室に入り準備をします。3時になると18人の子どもたちが教室に集まってきます。対応は3～4人で行います。4時までの間、学校の授業ではない、家庭での学習でもない、先生でも家族でもないいろいろな社会経験をした大人が見守る中で、宿題をしたり、ドリルをしたり自由に自分スタイルの勉強をします。

学習内容を自分で決めることが、学習意欲の向上につながります。子どもたちが、勉強が楽しいと感じてくれることを願っています。私たちは3年生が対象のこの事業にとってもやりがいを感じています。

前号ニュースレターにも書きましたが、私たちはおもに柏の子どもたちに対し、子どもの権利条約の精神を尊重し自主的、文化的、創造的な体験活動を行い子どもの心豊かな成長に寄与することを目的として活動していますが、「世界でひとつだけ絵本づくり」もその一つです。

子どもの育つ環境が様変わりしています、少子化が進み一人っ子も多くなり子どもが異年齢の子と接する機会も少なくなっています。

対象は1年生から6年生で子ども20人を定員とします。

お互い初対面の子どもがほとんどで、年齢も学校も違う子どもの集まりです。

このことが大切な体験だと思っています、自然に自分を見つめなおす機会になっているからです。

絵本づくりはそれぞれの子どもが誰にも縛られることなく自分の感性と創造力で絵本を作成します、最初はその場に慣れさせるために遊びや絵本の読み聞かせをします。

私たちは絵本づくりの材料調達と組み立て方を教え、質問があった時は一緒に考えます。

子どもたちが日ごろ見せない集中力と持続力に驚かされることが多くあります、学校の授業は一時限40分くらいですが、絵本づくりでは2時間近く続けて作業を行います。飽きてしまう子はほとんどいません。

子どもの潜在能力は大きいと感じます。

ストーリー、色づかいも様々でそれぞれ個性に満ちた絵本が出来上がり、それをみんなの前で発表します、このことも大変重要なことと考えています。

人はそれぞれ考え方が違うことがわかり、お互いに認め合い自分も大切な存在だと思えること、別の言い方をすれば自己肯定感を持てる機会になることです。

この絵本が子どもと保護者の楽しい会話の一助になればと、また、子どもの一生の宝物になってもらえることを願いながら今年も取り組んでまいります。



昨年度土曜講座「絵本づくり」より



昨年度「ステップアップ」より

# 理事長の徒然

井野口典子

一泊旅行に出かけるのに常磐線の網棚にボストンバッグを乗せたまま新幹線に乗ってしまったり、同じ黒でも、つま先の形がまるで違う靴を左右に履いて出かけてしまったり、と失敗は数限りなく挙げる事ができる私ですが、今回、心から悔やまれる失敗をしてしまいました。

四月末の出来事でした。息子は仕事が休めず、ママは下の子どもがまだ小さいことから、孫の幼稚園の遠足に付き添うことになりました。息子家族は川崎に住んでいます。ひと月に一度くらいは行き来があり、孫とは友達のような間柄。遠足の前日から泊まり込み、当日は天気も上々。私たちは意気揚々と出かけて行きました。

行先は横浜スーシア動物園。動物園の正門前でクラスごとの集合写真を撮り、そこで解散。園内は自由行動。マンションの仲良しの男子たちと行動するか、幼稚園の仲良し女の子たちと回るか、それとも私と二人が良いのか、孫に聞いたところ、女の子たちと行きたいということで、私たちを含め、五組の親子で園内を巡ることになりました。

動物大好きな私は、ついつい率先して動物を見て歩く形に。初めて出会った子どもたちでしたが、みんな私について来ます。

ママが作ってくれたカラフルなお弁当をほおばり、楽しく遠足を終えました。と、私は思いました。

夜になり、ママからメール。孫が、寝る時にさりげなくと泣いたというのです。もっとはあばとふたりがよかったと。私はハッとしました。そいえば、友達に意地悪を言ったり、急に私の手をひっぱったり、私にまで憎まれ口を言ったりと考えてみたら様子がおかしかったのです。一日中小さな心を痛めていたのだと思うと私も胸が張り裂けそうになりました。

ママのメールの続きに、五歳の子どもには「私のばあば、みんなの人気者で嬉しいな」とはいかないですね、と。

日ごろ子どもの心については学んでいるし理解もしているつもりでいたことが恥ずかしくなりました。自分の未熟さに情けなくなりました。

小さな子どもの悩みも、大人の悩みも、その重さは同じです。以前に講演会で聞いたことがあります。ほんとうに「ごめんなさい」。

やがて孫が大きくなったころ、この日の話をしたいと思います。今は、悲しい想い出が、二人の懐かしい想い出に変わる日がくる、と信じるしかありません。

## Cha Cha Cha

木曜日になるとシン君（仮名）がレッスンにやって来ます。なかなかハードな毎日を送っています。

遊ぶこともゲームも大好き。四時頃学校から帰宅、おやつを食へ四時半からピアノ。時間には遅れません。十分は早くきて、マンガを読んでいます。レッスン時間になり、三回は呼ばないとピアノの前に座りません。宿題はとりあえずやります。ピアノは、ますます弾けますが上手くありません。とても残念に思っていて、毎回私の気持ちや練習のやり方を話しますがなかなか直りません。ママにも伝えますが、こちらもなかなか・・・

三十分レッスン、終わるとまたマンガを十分くらい読んで帰ります。五時半には自転車で二十分かかる剣道の稽古。

そして八時半頃帰宅するようです。ほとんど毎日ピアノとバイオリンを三時間練習、十一時頃夕飯。信じられませんが、本当です。夕方睡魔が襲うようで、弾きながら瞼が重くなっているのがわかります。

いつも、もっと早く寝た方がいいと当たり前を言いますが「いつもこうだから」。

眠そうにしてると、ついこちらから話しかけることになりました。パパママも音楽が趣味で大学時代のオケで知り合ったそうです。ママはピアノも上手。パパは、バイオリンはもちろん、ゲームも上手らしいです。

時間に追われるような毎日を送っている彼が、先日「先生に嬉しい事があったよ」と来るなり言いました。「え？なまにっ？」心当たりがない・・・「英語の時間、聖奈（仮名）がね、Three piano、って言ってたよ、よかったね」聖奈ちゃんもレッスンに来ています。同じクラスだったんだね。

ありがと、シン君。

（編集長 辻千也子）

